



新潟の水辺 だより

Vol.30

《新潟の水辺だより》 ●編集発行・新潟の水辺を考える会 ●発行日・1995年2月1日 Vol.30
●〒950 新潟市大学南1丁目7821-5 (株)グリーンシグマ内 Phone025-263-2733 Fax025-263-1134

TOPICS

甲突川(鹿児島市)の
石橋群撤去工事に思う
新潟の水辺を考える会・会長
新潟大学工学部・教授

大熊 孝

鹿児島市は人口約53万人であり、新潟市とほぼ同規模の都市である。新潟には信濃川という大河が流れているが、鹿児島市街地には川幅約50mの甲突川が流れている。

この川には、今から約150年前に、毎年1橋ずつ架けられた五大石橋があった。この石工の棟梁は肥後の岩永三五郎であり、薩摩藩に雇われて設計・施工したものである。軟弱な沖積地盤にアーチ橋として建設されたが、現在の自動車荷重に耐える強度を有し、世界の石橋と比較しても独特な構造で、その美しさは世界的文化遺産に認められておかしくない存在である。この五大石橋は鹿児島人の誇りであり、過去、幅員が狭く自動車交通の障害であるということで何度か架け変え議論があったが、今まで保存されてきたのであった。

ところが、1993年8月の鹿児島大水害で、この5橋のうち新上橋と武之橋が洪水に破壊された。甲突川を管

理している鹿児島県は、これを機会に甲突川の大幅改修を計画し、残った3橋を取り壊すことにした。既に昨年の5月に、最上流にあった玉江橋が解体撤去された。そして、この1月中にも高麗橋を撤去するということが、解体の準備が進められている。残る西田橋も、鹿児島県の文化財指定を受けているが、続いて撤去されることになっている。この県の改修方針に対し、川沿いの緑道を利用すれば石橋を残した治水が可能ということで、現在、鹿児島市民による反対運動が盛り上がり、1万人署名運動が展開中である。



美しい高麗橋 (大熊撮影)

この運動の一環として、この1月7日に「治水とまちづくり国際セミナー」が開催され、そのパネラーに私が呼ばれた。私は1993年10月に個人的に鹿児島市の災害状況をみていた。今回はその後の改修状況を視察し、この改修方針は現在の日本で最も遅れていると批判を展開した。何故なら、氾濫のおそれのない河道で2面・3面張りコンクリート護岸による極端な拡幅と掘削が行われ、下流市街地への洪水流下を一層激化するものでしかなく、近年の近自然河川工法については一顧だにされていない状況にあったからである。特に、山間蛇行部でのショートカットは大規模な地形改変を伴う蛮行であり、誰の許可を得てこのような工事がなされているのか疑問を抱かざるを得なかった。

これらの行為は、ゆっくりと時間をかけて造られた自然や文化を一挙に破壊してしまうもので、土木技術者がいつの間にか神的存在になっていること、を意味している。土木技術者は驕りを捨て、自然や文化に対してもっと謙虚であらねばならないと考える。この文が本紙に掲載される頃、反対運動が成功して、高麗橋・西田橋の残存が決定していることを願って止まない。(1月22日)

水辺の情報

通船川恋(鯉)物語

木戸地区 星島 卓美

通船川を恋する人は早起きです。5時頃には目指す目的地に陣取り、いつものポーズで静かに相手の来るのを待ちかまえ、タバコをふかしたり、貧乏ゆすりをしたりして、ジイト待ちかまえています。今日は駄目かと思ったら来ました。その手応え、シビれるねえ、この感じ・・・あなたも来てごらん第一貯木場(藤見公園脇)木材が長期間水に浸かり、皮が腐食し生物が生息します。それを朝食に恋人が来ます。大人ですよ尺以上(約30cm以上)はザラです。残念ですが、食用になりません。釣った恋は全部放免です。ここは、「トレーニングフィッシング・プール」と私は呼んでいます。チョット粋な呼び名と悦にっています。ところが最近、異変が起きました。今まで放免していた恋を買う人が現われました。お腹の大きい女性だけ(失礼)を、恋の本場



長野県に嫁がせ稚魚を清水で育成すれば立派な恋になって、各地で新しい恋物語?を育てています。

恋の川、夢を宿した通船川・・・に皆様の夢を一杯描いてください。描いた夢を県や市にプレゼントしましょう・・・描いた画は、必ず通船川の額縁になると思います。

(記)

2月26日(日) 県営第2貯木場で、冬の水鳥ウォッチング(公民館共催)を行います。朝8時現地集合、案内 高橋 正良 終了後、東地区公民館でディスカッションを行います。会費200円 おしるこ用意



四川省奥地紀行 その3 (九寨溝)

先日、ある友人が九寨溝でみんなで撮った記念写真の私の顔を見て、「これあなたなの？まあここにいるときと全然違う、とってもいい顔をしているわ。こんな顔みたことないわ。」と驚いていました。彼女にいわせると、その時、わたしは確実に地球とつながっている顔をしていたそうです。

その写真を撮ったのは九寨溝に着いて2日目です。水しぶきをあげながら落ちる滝や流れ、水底の藻を映しながら光をあびキラキラ緑色にひかる水面、樹木と樹木の間を育みながら流れる水、水の中に静かに横たわって白くなっている木の抜殻、それを沈めている透明なあおい水、山に囲まれている静かな湖は周りを映す水鏡、あまりにも青すぎる湖、秘そやかな高山植物が目につく草原、見渡す限りの一面の樹木の間を流れて落ちる大きな滝、その下での清冽で全てを許すような水しぶき、私が見て感じたものは、言葉で書くとまるで何も伝えられない気がします。これらを創造した自然の素晴らしさにあらためて、驚愕してしまいます。

十勝川

1994年の春、十勝管内で行った鳥類調査では、116種類もの出現を確認でき、うち64種を写真撮影した。

ネズミを除く6種の動物の出現を確認でき、うち4種を写真撮影した。

この調査を通じて感じたことは、水辺に多くの生物が集まる、という気づいてみれば当たり前のことであった。

乾燥した大地にながれ、万物のいのちをはぐくむ川、十勝川という印象を地調査から感得した。

下流部には十勝川の眺めの美しい場所が存在する。最悪の構造物、千代田堰堤の上流左岸である。

九寨溝にいるときは、歩く時は歩くことを楽しみ、いる時はいることを楽しみ、常にその時のその場に自分をフォーカスしていたのだと今は思います。チベット族の聖地である九寨溝、その場が持つ気の力は確かにあるようです。津村氏は水が持つ癒しの力をどこよりも強く感じられる場所であると言っています。私もそのような場所の力を借りて、自分をその時の今にフォーカスすることができた、それは「いまを生きていた」と言い換えることができるでしょう。そのことが、わたしのいい顔をつくりだした原因であるような気がします。

九寨溝をつくった自然の力と同じ力が、私たち1人1人を造っていることに感謝を捧げつつ、どのようにして日常に九寨溝をつなげていくか、もしくは見い出していくかが、わたしが新潟でもいい顔ができるかどうかの決め手となるのかもしれない。(まだ続きます) 八木 栄子



蛇行する十勝川の両岸に新緑のヤナギの林が広がり、牧場の馬が水辺で休む。遠くに日高山脈が広がり、アオジの鳴き声がやまない。高橋 正良

破堤と危機管理

水辺の文化情報としてカヌーの話を載せる予定でしたが神戸大震災のため私の経験した西川の破堤とそれにどう対処したかについてのエピソードをお話しします。

10年以上前になります新潟市坂井輪地区内で天井川となっている西川が大雨で左岸堤防の一部が切れてしまいました。そこから小針まで海拔0m以下で流れ出た水は勢いよく流れていました。近所の人、消防署の人、役所の人が集っていましたが、誰が指示しているのかわかりません。廃品の歩道橋や砂袋を投込みましたが破堤は広がるばかり。私は見かねて偉そうな人

数人に「川の中央に向かってアーチ型に土囊の堤防を造って行かなければ傷が広がるだけ。」と

やがて、ダンプで砂や麻袋が運ばれて来たので破堤した傷口の両側から土囊を川中央に向けて積み始めました。2時間ぐらいたち周りを見るとさっきまで居た近所の人たちは地元の消防団だけになっていました。

後日談で市は砂や麻袋を買っていいと指示した覚えがないなど言ったと聞き地元の方はカンカンでした。私も金一封かなとは言いませんが御粗末な危機管理の上、逆なでするとはと怒った記憶があります。 相楽 治

川の工事に木を使うこと

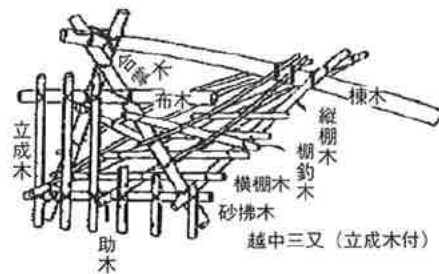
木工沈床や川倉に代表されるような、昔の工法を河川工事に復活しようという機運が高まっている。

「自然に優しいのは解るが、強度に劣るのでは・・・」という声も聞かれる。しかし、強度のとらえ方にはいろいろある。

例えば、強度を比重で割る「強度比」を調べると、木は、引っ張り強度で鉄の4倍。圧縮強度ではコンクリートの5倍なのである。

50年以上も機能を維持している水制を見ていると、伝統工法万歳と叫びたくなる。

石月 升



もうすぐ地球はカラッポだ

どこへ行っても地球はもはやエコノザウルスでいっぱいだ。経済で大きくなったインテリ恐竜、エコノザウルスは片っ端から地球の資源をムシャムシャガツガツ食べている。

あなたも私もエコノザウルス。今日も元気に絶滅へと向かっています。

出典

本田 亮・著

笑えない環境問題マンガ集2

「もうすぐ地球はカラッポだ」学習研究社

地球を食べつくす人間、
それがエコノザウルスだ！



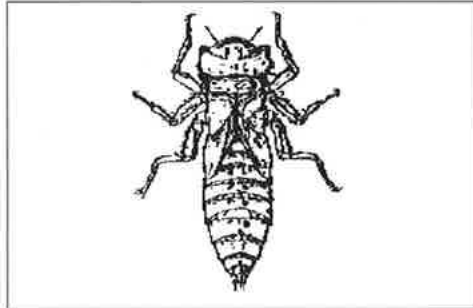
トンボをお忘れずに

川から連想するものは「水」「魚」「鳥」……しかし、「トンボ」と答える人は希である。寂しい気がするが、トンボが水生昆虫であることは厳然たる事実なのである。

新潟の水辺から姿を消してしまったトンボは4種、危急種も4種以上とされている。

県内最大の潟湖、福島潟の調査ではアジアイトトンボなど10種程度を確認するのがやっとという状況だった。幻となった既存種の発見をあきらめたわけではないが、前途は灰色に近い。

多様な生息環境を有しながら、これ程までに生息種数が減少したのは、水質の悪化が最大の



原因であろう。

これ以上トンボをトキの仲間に誘いこまないために、水のきれいな池づくりの絵を書いて、それを現実のものとしてゆく活動を強めなければと、このところ少々焦っている。石月 升

魚類—その1 カマツカ

20cmほどになるコイ科の川魚。中流域の砂礫底に住み、掃除機のように砂を吸い込んで中に潜む小動物を選び出して食べる。体の色斑も砂に似ており、目だけ出して砂の中に潜っていることがよくある。保護色と隠れ身の術に絶対の自信を持っているかのようだ。

食用にもされない雑魚であるが、なぜか数多くの地方名をもつ。魚沼ではスナモグリ・スナツポリ、荒川沿いではカワギス、東蒲原ではカマギス・カマンガス・カマニス・カマガエシ、そして下田ではガマガスと呼ぶ。古



カマツカ

くから呼び馴らされた名前には、その地方の風土と歴史を感じさせる深い味がある。

井上 信夫

鳥だより

新潟には水辺の鳥が多い。水辺の多い中でも人気の高いカワセミは水辺の会のシンボルマークになっている。春になると赤土の1.5m以上ある切り立った壁を利用して直径約7cm、深さ約70cm位の穴を掘って営巣する。主に雌が子育てをし、雄が餌を運ぶ。餌の多くは魚類で、雛の成長にあわせて大きさを変えていく。一昨年の観察例では同じ夫婦が春と夏に二回子育てをしていた。一番困るのはカメラマンといたずら坊主。秋になると暖かい地方に移動する個体が多い。その時期には多くの



秋のカワセミ幼鳥

幼鳥が水辺をコリダー（廊下）として渡っていく。

高橋 正良

雪の夜

川瀬 詠子

今日もまた雪だ。夜も遅くなると、もう誰も外に出ていない。そのせいだろうか、しんと静まり返っている。雪の降る夜は、雪に音が消されて静かだという。確かに雨と違って、屋根や、ガラス戸をたたく音はしない。

それなら、雪の晴れた夜はなぜしずかなのか？積もった雪が音を吸い込んでしまうのだろうか？それとも、美しい白の世界の中で、誰もが静寂な気持ちになってしまうのか？月や星の出ている夜は一層静かに感じる。秋の月夜ともまた違う静かさが好きである。

そんな雪の晴れた夜、家のあかりも暖かである。雪に埋もれかかった家の四角いまどのあかりを角を丸く感じた。雪の降る夜も、高田の街のあかりがぼんやり薄い桃色に映って見え、やはり温かく思えた。雪あかりというものである。

雪あかりの空の下、チェーンを付けた自動車がシャリシャリと音を立てて走る。大きくなった氷柱の重みで、突然、屋根の雪が滑り落ちる。車通りのそんなに多くない私の実家の夜は、普通の雪国の家の夜と同じで、時々、野良猫が鳴く以外は、そんな音しかしないのであった。

まだ中学生や高校生のころ、帰りが遅くなり、誰もいない、しんとした道を一人で歩くことが度々あった。たんぼの真ん中を通る道路からは、ちょうど雪の巨大迷路のように、雪の壁とその壁の上に、遠くの景色か何かがちょっと見えるだけなのだが、それも黒っ

ぽくぼやけている。別に心細いことはない。楽しい気持ちにさえなるのであった。帰り道、誰も外に出ていないのは、誰もが家で暖まっているからで、そんな時間は、ほとんどの家が、夕食時間なのである。そして、家に帰えると、いつもより少し優しい家族が迎えてくれるので、帰る者には、少し特別扱いしてもらおう、気持ちの良い日なのであった。

あるCMに、雪遊びをして帰って来る子供達をお母さんがシチュウをつくらせて待っているのがあった。あのCMを見ると、「暖かそうだなあ、今晚はシチュウにしてほしいなあ」と、真面目に思った。雪の日や、特に寒い日の帰り道には、あの感じがした。「お鍋の恋しい季節」というのと同じ気持ちである。

最近では、かわいげがあると思える程しか積もらないので、雪が降っても、まず喜んで迎えてしまう。雪のために大変な思いもしているが、やはり、雪の本当の不便を味わっていないのだろう。雪かき、雪道つけ、雪下ろしもやたが、一番大変なのは大人であったし、子供にとって、冬は、当り前のように雪が積もり、特別な遊びができる楽しい季節でもあった。「春までよろしく」といったところで、すぐに消えてしまう雪なので、寛大な気持ちになる。この頃思い出す雪の思い出は、いいことばかりなのである。

会員紹介

MEMBER'S

S



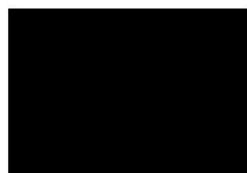
杉山 泰彦



この会に参加してはや3ヶ月。最近は休みの度に阿賀野川へ行き写真を撮っています。今のテーマはとにかく水辺に足を運ぶこと。暖かくなったら釣りにもいってみたいです。水辺に関しては超初心者です。よろしくお願いいたします。



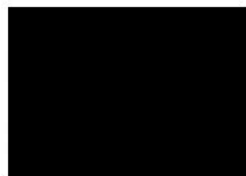
森本 利



会社設立時より参加。現在は会の会計と情報管理を担当。京都生まれで19才より新潟市に在住。大阪府枚方市の淀川で遊んだことが思い出。趣味はギターの弾き語り、水辺に関する詞（詩）があれば曲をつけたいと思っています。



丸山 ^{かおる} 芳



環境破壊の元凶は土木技術。その公務員技術者で40年、昨年定年。会に期待しての入会です。私の問いかけは、土木技術は誰のものです。水も緑も大切、でも水生生物は日陰ものですね。新潟市の「井の中の蛙」です。



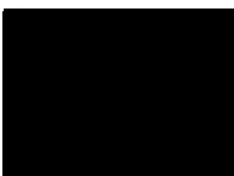
渡辺 和夫



生まれは塩沢町の山の麓、豊かな自然と、季節感溢れる所で仕事をしています。仕事柄、開発と自然のあり方をいつもテーマとしております。現在カヌーを通じ、川の中より岸辺を見て河川を思考しております。趣味、野球・スキー・登山。



五十嵐 実



自然環境に興味を有したのは、新潟高校の生物部に入部して以来。現在は、自然農法と、植物工場の両者の可能性を勉強中。巻機山と雲天を愛する山人でもあります。

会員紹介原稿募集

氏名

写真
or
似顔絵



新しい会員の方から順にご紹介していきます。写真や似顔絵とご連絡先をお願いします。

EVENT & BOOKS

イベント情報

1 ドキュメンタリー映画

日時 ● 1995年2月23日(木)～2月26日(日)
場所 ● 新潟文化村 O-DO23日(木)は万代市民会館6F
内容 ● 大ホール
記念講演：韓国の女性記録映画監督ピョン・ヨンジュ
映画上映：「アジアの女として」
24日(金)～26日(日)は新潟文化村 O-DO
映画上映：小川紳介と小川プロダクション
全作品上映+小川プロから独立した作家たち
(025-247-2558)

4 阪神大震災救援フェニックスコンサート

日時 ● 1995年2月26日(日) 午後2時～
場所 ● 新潟県民会館大ホール
内容 ● クラシックコンサート・フォークロレ・竹林精舎Bandコンサート
(025-228-4481)

6 環境マンガ展 エコノザウルスが行く

日時 ● 1995年3月12日(日)～3月21日(火)
場所 ● NEXT21 1Fアトリウム
内容 ● 入場無料・マンガ展示
(025-223-6477)

2 第4回地域づくり

日時 ● 1995年2月25日(土)～3月21日(日)
場所 ● 佐渡 畑野町松ヶ崎小学校体育館
内容 ● 講演会・パネルディスカッション・井戸端快談
(025-285-5511)

3 県営第2貯木場で冬の水鳥ウォッチング

日時 ● 1995年2月26日(日) 午前8時～ 現地集合
場所 ● 県営第2貯木場・東地区公民館
内容 ● ウォッチング・ディスカッション・おしるこ
(025-241-4119)

5 雪国流域環境保全交流シンポジウム

日時 ● 1995年3月1日(水)午後1時30分～5時
場所 ● 六日町文化会館
内容 ● 基調講演・パネルディスカッション
(0257-73-5500)

7 第6回世界湖沼会議霞ヶ浦'95

日時 ● 1995年10月23日(月)～10月27日(金)
場所 ● 筑波大学会館・土浦市民会館
内容 ● 記念講演・基調講演・分科会・霞ヶ浦セッション
(0292-24-6905)

書籍情報

1 川を制した近代技術

編集 ● 大熊 孝
出版社 ● 平凡社 (定価3,200円 税込)
内容 ● 近代国家建設の過程で、江戸期の技術はなぜ棄てられたのか。近代技術に課せられた使命とは何だったのか。水と川をめぐる問題の原点をさぐる作品。

2 石橋のある風景

編集 ● 山口 祐造
出版社 ● 葦書房 (定価2,400円 税込)
内容 ● 日本ではまれな石造文化である石橋を石工の伝統・歴史・系譜、現代の土木工法との比較などあらゆる面から解剖、今なお人々の暮らしと共にある石橋の世界を丹念に探る作品。

入会案内

新しい会員を募集しています。現在会員数は約90人となりました。知人、友人の方に入会のお誘いをお願いします。

財政基盤の確保のためにも会報のコピーはご遠慮下さい。2,000円のお安い年会費でお得な情報が満載です。

★入会申し込み★

〒950-21 新潟市大学南1丁目7821-5
株式会社グリーンシグマ内 森本 利
Phone 025-263-2733 Fax 025-263-1134

編集後記

こんな形で編集してみました。「新潟の水辺たより」リニューアルいかがでしょうか？ご意見、ご希望お聞かせ下さい。改良を重ねてより良いものにします。偶数月に一回を目標に発行します。

原稿について・・・原稿は今月から編集局鳥になった高橋まで送って下さい。一番ありがたいのはMacのままNIFTYのPDC01270(高橋)へメールを、またはフロッピーを郵送で、他の機種を使っている方はフロッピーをMS-DOSに変換して、できない方は機種をメモして郵送で。何も無い方はFAXでも郵送でも、手書きでもワープロ出力でも結構です。写真はトレベを貼ってトリミング指定をしてもらえれば間違いなし。奇数月の月末が締め切りになります。

★原稿受け付け★

〒951 新潟市寄居町704 平久ビル
株式会社サザンウインド内 高橋 正良
Phone 025-223-6477 Fax 025-223-6981